地域とつくる開通の喜び

～東村山３・４・15 の２号線交通開放に向けて～

1.　はじめに

東村山３・４・15 の２号新東京所沢線は、清瀬市中清戸三丁目から清瀬市中里二丁目に至る都市計画道路であり、区部の放射７号線から延伸され、区部及び北多摩北部地域と埼玉県所沢市を東西に結ぶ重要な幹線道路である。開通区間の東村山３・４・15 の２号線（清瀬橋～上清戸区間）は、令和８年２月 14 日に交通開放を迎えた。（図－1）

今回の区間は、延長約 1.6 ㎞の新設道路であり、交通開放後は車や自転車、歩行者の通行ルートが大きく変わることが想定された。そのため、地域の皆様に交通形態の変化を十分に周知するとともに、安全に利用していただくための対策をすることが重要であった。本稿では、私が若手職員として携わった次の体験を紹介する。

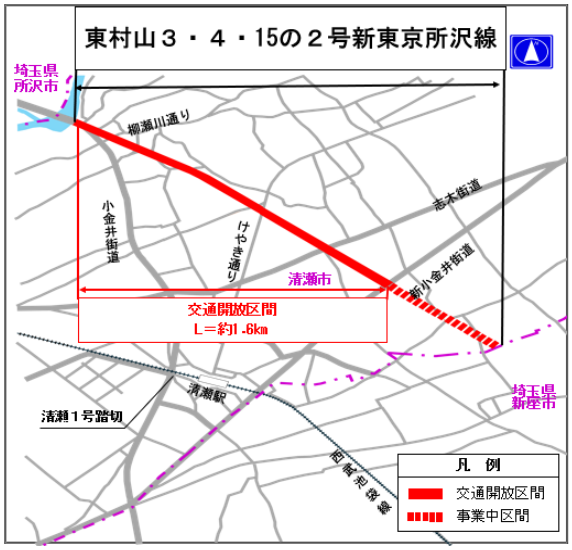


図-1　概要図

2.　交通安全イベントの実施

今回の交通開放に伴い、一部の児童は新設道路を利用して登下校をすることとなるため、児童が新たな交通環境に安心して慣れ、安全に登校できるような工夫が必要と考えた。そこで、特に地元の小学３年生が学校教育において交通安全を学んでいる学年であったことから、新設道路の開通時期に合わせて交通安全イベントを実施し、正しい交通ルールや安全な横断方法等を学ぶ機会を設けた。東村山警察署の協力のもと、

横断歩道の渡り方や自転車通行空間の利用方法（写真-1）、新しい道路構造の説明（写真-2）

などを学んでもらった。私は運営補助として地域の子どもたちと直接関わり、専門的な知識を易しい言葉で児童に伝える難しさを実感した。



写真－１　交通安全教室



写真－２　道路構造の説明

3.　登校練習の実施

さらに、本道路の開通により通学路のルートが変わることとなったため、開通前には東村山警察署の協力のもと、通学時間帯に登校練習を実施した。当日は、小学生・中学生のみならず、ご父母の方たちにも興味・関心を持って参加していただき、子どもたちの元気な挨拶に触れることができた。取組により開通後、児童・生徒だけで新しい道路を安全に利用できるよう準備をすることができた。（写真-3）



写真-3　登校練習

4.　開通式典に向けた準備

交通開放の安全対策だけでなく、開通という地域の大きな節目を祝う式典の準備にも携わった。式典では、地元中学校２校の吹奏楽部に演奏をお願いするとともに、学校や警察、市の関係者との調整や資料作成、リハーサル準備などを繰り返し行った。私は、運営スタッフの一員として、一つの行事を成功するためには、多くの関係者との連携と綿密な準備が重要であることを学んだ。

5.　開通式典の成功

交通開放当日の午前中には、清瀬市長や都議会議員、地元自治会、関係機関、工事関係者等を招き、開通記念式典を開催した。続いて行われた鋏入れ、くす玉開披、通り初めでは、地元中学校２校の吹奏学部による演奏が式典を盛り上げ、沿道の方々からも大きな拍手が送られた。（写真-4）（写真-5）

また、保護者や地域住民の方々とともに開通を祝う機会となり、道路開通が地域にとって大きな意味を持ったことを実感した。後日、校長先生からは「清瀬市の発展につながる場面に立ち会い、協力できたことが、生徒の皆さんの社会経験の一つになれば幸いです。」とのお言葉をいただいた。演奏を終えた生徒たちの達成感に満ちた表情や、開通を喜ぶ地域の方々の姿を目の当たりにし、道路の開通が地域に与える影響の大きさを実感した。



写真-4　地元中学校の吹奏学部





写真-5　開通式典状況

6.　おわりに

今回の経験を通じて、歴代の諸先輩方がバトンを繋いできた路線の開通に立会い、地域の方に喜ばれる瞬間を目の当たりにし、達成感を得ることができた。一方で道路事業は単に道路を造るだけではなく、地域の皆様のご理解とご協力のもと、安全な交通環境を創り上げていく責任の重い仕事だと改めて実感した。北多摩北部建設事務所管内では、これからも都市計画道路の整備が続いていくため今回の経験を生かし地域の方に喜ばれる道路づくりを目指していく。